

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定、実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の確かな学力の定着と学習意欲の向上につながる組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②国際理解教育を推進し、多様な価値観を受容する力を育てる。</p> <p>③生徒会活動・学校行事等の活性化に取り組む、自己有用感やリーダーシップを育てる。</p>	<p>①新学習要領移行期2年目に伴い指導と評価の確立に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」を図る組織的な授業改善に取り組む。</li> <li>・インクルーシブ教育の視点から、カリキュラムに関する見直しを行う。</li> </ul> <p>②様々な他者との協働的な学びをとおして、自己理解を深めるとともに多様性を理解する学びを充実させる。</p> <p>③学校行事・委員会活動・生徒会活動を活性化するとともに、生徒主体の活動を増やす。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実践できる授業研究を組織的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業研究に取り組む、インクルーシブ教育に対応できる授業づくりを進める。</li> <li>・インクルーシブ教育の視点から、カリキュラムと評価に関する見直しを行う。</li> </ul> <p>②「総合的な探究の時間」の指導内容を充実させることで生徒の心の変容を育てる。</p> <p>③生徒会執行部を中心に今年度の活動方針を明確にする。各種委員会の委員長との合同会議を開催し行事時の活性化をする。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実践をとおして生徒による授業評価のポイントが向上したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の授業評価においてわかりやすいというポイントがアップしたか。</li> <li>・インクルーシブ教育の視点に立ってカリキュラムと評価の見直しができたか。</li> </ul> <p>②「総合的な探究の時間」の生徒の振り返りシートで多様化する国際を理解する項目でポイントアップしたか。</p> <p>③定期的に会議が開催できたか。また、それに伴う活動実績があったか。行事終了後のアンケートなどで生徒の満足度があったか。</p>					
2 (幼児・児童・) 生徒指導・ 支援	<p>①生徒とのコミュニケーションの充実を図り、きめ細かく粘り強い生活指導・生徒支援を組織的に行う。</p> <p>②部活動の活性化に取り組む、責任感や自己肯定感を育てる。</p>	<p>①生徒一人ひとりが規範意識を持ち、自立に向けた意思決定と、正しい行動様式を選択できるよう自己指導力を高め、現在および将来における自己実現を図る。</p> <p>②入部率40%以上を目指す。また、入部後の退部者を減らす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が活動に取り組むやすい環境を整える。</li> </ul>	<p>①日常的な生徒への声かけを徹底するとともに、分かりやすく丁寧に校則等の理解を図る。また、インクルーシブの観点から視覚的な指示表示によるルール等の整備を行うとともに、支援についての研修を行う。また、実態に合わせたマニュアル等の見直しを図る。</p> <p>②仮入部期間や部活動再チャレンジ週間などを設定し部活動に入るきっかけをつくる。部活動紹介ビデオなどで各部活動のPRを行う。</p>	<p>①年間の生活指導件数が減少したか。また、個別の指導が適切に計画・実行され、その後の生徒の行動変容につながったか。職員に支援についての具体的方策が身についたか。また、マニュアル等の見直しを行い、実態に合わせ修正できたか。</p> <p>②入部率が増えたか。また、年度途中で入部者がいたか。</p>					
3 進路指導・ 支援	<p>①多様な進路希望の生徒にきめ細かく対応するため、3年間の系統的な進路支援体制を充実させる。</p>	<p>①生徒の進路希望を実現するために、進路行事の充実を図り、進路選択への意欲を向上させる。</p> <p>②基礎力診断テスト、学習計画表を活用し、キャリア実現に向けて生徒が自己の学びを見通し、振り返る機会を充実させる。</p> <p>③キャリアパスポートを活用し、生徒が自己の生き方や進路を継続的に考える姿勢を養う。</p>	<p>①「総合的な探究の時間」を通して、進路ガイダンス・作文指導等の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事のまなび場やインターンシップについて、多くの生徒が参加できるよう説明会・掲示等を工夫する。</li> </ul> <p>②学習計画表を作成させ、計画的に学習を進める習慣の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年の基礎力診断テストにおいて、振り返りの実効性を高めるために、即日結果確認のできる「WEB 解答」を導入する。他学年においても事前指導による目標設定や自己採点、振り返りを行う。</li> </ul> <p>③キャリアパスポートを活用し、学期や行事ごとに見通し・振り返りの時間を設ける。作成したキャリアパスポートはデータベース化し、進路支援に活用する。</p>	<p>①進路ガイダンスを実施することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作文指導を実施することができたか。</li> <li>・提出率がアップしたか。</li> <li>・仕事のまなび場やインターンシップの参加者は増えたか。</li> </ul> <p>②学習計画表を活用できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年で基礎力診断テストの「WEB 解答」を導入できたか。全学年で事前指導・振り返りができたか。</li> </ul> <p>③学期や行事ごとにキャリアパスポートを作成する時間を設け、データベース化したものをグループ・学年等で共有できたか。</p>					

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○地域に開かれた学校、地域から信頼される学校をめざし、地域との連携・交流を推進する。	○本校の学校教育活動を効果的に発信したり体験的な活動を実施したりすることで、地域との連携を図る。 ・地域に開かれた学校として、地域との交流・連携を推進する。 ・PTA 活動や地域貢献活動などにおいて、地域に開かれた学校として、地域との交流・連携を推進する。・	○学校説明会等を適切に計画し、効果的な運営を図る。ホームページやtwitter等のツールを活用し、効果的に地域へ本校の教育活動を発信する。 ・本校主体の交流行事を盛り上げ、地域の行事へ積極的に参加する。 ・感染症対策を徹底し、地域に貢献するような行事を開催する。	○学校説明会等の満足度がほぼ満足というアンケート結果となったか。 ・ホームページやtwitter等の活用で地域の本校への高い評価を得られたか。 ・地域貢献活動等を開催できたか。また、生徒が積極的に活躍し、生徒の満足度がアップしたか。					
5	学校管理 学校運営	①生徒が安全で安心して生活できる教育環境・教育体制の管理に努める。 ②教員の働き方改革を推進するために、学校運営協議会と協働した組織的な学校運営や校務の効率化を推進する。 ③事故・不祥事の防止を徹底する。	①生徒一人一人が、安全で安心して活動できる環境を整える。 ②効率化へ向けた業務改善のために施設の改善を目指し、いろいろな部分で負担軽減につなげる。 ・校務を効率化できるよう、備品等の整備に努める。 ②職員同士で共有可能な授業環境整備に努める。業務進行管理を意識し、業務効率の改善されるよう努める。 ③職員の当事者意識や高い倫理観を養うことはもとより、組織的なチェック体制により事故・不祥事を未然に防止する。	①インクルーシブ教育に対応できるように、適した教室の配置・校舎内の整備に努める。 ・DIG (災害図上訓練) 訓練などは、災害は起こるという前提で、教員向けの研修を行う。 ②効率化へ向けた業務改善を組織的に取り組む意識を高め、個人やグループで所有している具体的な取組ポイントを共有する。 ・Chromebook、大型モニターなどインクルーシブ教育のために新しい備品に切り替えていくよう工夫する。また、多くの備品を円滑に活用できるよう管理に努める。 ・インクルーシブ教育実践に向けた授業のユニバーサルデザイン化に努め、職員同士で共有可能な教材開発、授業環境整備に取り組める土壌をつくる。有効的な業務アシスタントの活用を模索し、業務効率の改善を図る。 ③定期的な不祥事防止会議や研修会を持ち内容の充実を図る。またグループリーダーや中核の教員が中心となり、積極的に声掛けを行うとともに、業務の事前段階で日程とチェック項目を含む業務内容の共有を図る。	①インクルーシブ教育に対応した、適した教室の配置・校舎内の整備ができたか。 ・DIG (災害図上訓練) 訓練などを実施できるよう、教員向けの研修ができたか。 ②職員の組織的に業務改善に取り組む意識が高められたか。また、グループや教科等で、環境整備や業務改善の具体的な取組を共有することができたか。 ③定期的な研修等を積み重ねることで、不祥事防止につながったか。相談しやすい職場になり、同僚性が高まる中で、業務に関する日程の確認、業務内容の共有が図られ、不祥事防止につながったか。					